

愚衆によつて獨裁專制者は絶世の理想人となる。政治家は波瀾に棹さず舟子の如くであるが到着する彼岸の意外なことを見ても恬として耻ぢない。反つてこれを巧に利用する。

社會主義中の革命過激派から發足したムソリニが第一に國家國民第一主義を標榜し鐵拳主義の主戰論者となり、在郷軍人及び青年團を包擧して國民的思想を遂行する獨裁專制者となつてゐる。その獨裁振りは種々の反對潮流に對して如何なる關係を保持してゐるか。吾人は獨裁主義の理論に傾聽しそれと共に彼が今日まで行ひ來つた實際政治とを審に見たいのである。

一つの天體はその圏内に入る事物をその磁力の中心に惹きつける。伊國に足を踏み入れた旅客は彼ムソリニの磁力に惹きつけられる。磁力の性質如何はその圏外に出でて後に漸く知ることが出来る。

新著紹介

○鑛業地理

石川成章著 菊版六〇二十一〇〇十二四頁

岡版六二葉 東京金刺芳流堂 十一月 定價六圓五〇錢

本邦に於ける有用鑛物の分布、産狀、品質、用途等を中心として廣く世界諸國に於ける狀況を叙述した彪大な著書である就中炭田と油田とに就いては二百五十頁を費してかなり詳細に記述してある。有用鑛物の分布に重きを置いてあつて鑛業に伴はれた人文地理方面はあまり攻究されてない。本邦の鑛業資源に就いて知るには内容が豊富である故纏まつた便利な本である。附載された有用鑛物文獻は摘出が廣く研究者には都合がよいがあまり多すぎて玉石混淆の憾みがある(A)

○アイヌ語よ 日本地名研究

ジョン・パチャー著 一二

リ觀たる 九月 東京文録社 定價一圓

アイヌ語を以て日本地名を解釋せんとする先覺者であるパチャー氏の研究指針を示したものである。アイヌ語を説明して地名解釋の鍵を示し讀者の研究の基礎を解いたものであるから日本地名研究者を益する所が多い。(N)

○肥後藩の農村制度

内村政光著 四六版 二五九+

五四頁 玻璃版六葉 昭和四年七月 熊本地歴研究會發

行 定價一圓八〇錢

肥後藩に於ける地方制度を記録によつて編述したものである。地方制度上の著しいことは各部を數區の手永に分け、手永は總庄屋が支配し、手永は之を村に分け、村庄屋が之を支

配したことである。家老、中老、奉行から初めて村役人の庄屋、頭百姓、山の日(山林官吏)、村横目(巡察)、藏府に至るまでの役目を記録によつて判らせる様にしてあるが、其の間に農業が如何に政治の本であつたかが窺はれる。殊に阿蘇郡南郷布田手永に就いては到る處其の内容が詳記されて居るから手永の一例として舊農村研究の資料となすことが出来る。猶御藏納め、關所の二章と附録として肥後藩の政治史年表が掲げられてある。(S)

○談山神社文書

昭和四年十一月十五日 吉井良地發行

藤原鎌足公を祀る別格官幣社談山神社の過去は天武天皇の六年鎌足の子定慧和尚の草創した妙樂寺に創まる。天曆年間實性僧都がこゝの座主となつてから漸く隆運に向ひ、廣大な領地と多數の衆徒を擁し大和の中央に盤据して蔚然たる勢力になつた、關西の日光と稱せらる殿堂の美觀は云はずもがな今も本殿の左右に校倉があつて、向つて右には刀劍武器を納め、向つて左には文書を藏する、刀劍の數は誠に夥しいものであつて無慮數百に達する、文書の方も二千五百通からある右文左武眞に大纒冠の威靈新たるを覺ゆる。今や前の宮司吉井良寛氏は知友中村文學士に囑して、その豊富な文書を整理し、こゝにこの菊版七百頁の大冊を編し、この神社を中心とした古文書集を出された誠に照代の慶事といつてよい。文書は主として天正以後のものが多く、歴史を學ぶ人の參考資料である。正價八圓、京都丸太町堀川の星野書店から賣り出

してゐる。本書は近頃見た新刊の書籍の中の特種のものであるから敢て其刊行を報告しておくのである。(藤田)

○我等の國土

田中啓爾著 古今書院發行 定價一圓八十錢。

大正十二年以來七年間北は北海道から南は臺灣まで日本を旅行して歩いた著者の目に映じた日本を、いかにも平易に説明された本である、四六版三〇〇頁、記事簡潔地理的環境の説明があつて、しかも肩がこらぬ青年の好讀本として推奨する、著者は本書を以て、將に計畫せらるる日本地理書の概報だといはれる、予は讀者と共にその地理書に絶大な期待をさへげた。(F)

○政治地理學

飯本信之著 改造社出版 定價三圓五十錢

著者の語によれば大正十二年以來、自然地理學の研究を離れて専ら政治地理學に入られたとの事であるが、それに就いては短時日に著者の勉學の程も窺はれて敬服に堪へない、本書菊版四百頁の大冊で編を分つこと四、第一編地理學及政治地理學の概念、第二編國家の形象觀察、第三編國家と自然景域との關係、第四編國家と文化景域との關係といふ風にしてある。かうした廣汎な部門に互つての論究であるから、全體として云へば概論的のものである。一々の國家の歴史的發展に迄メスを入れるといふ暇がない。蓋し從來の地理學者は國家を取り扱ふに際して多くは概念的にその形象のみを論じたのであつたが本書もやはりさうした趣に充ちてゐる。例令は陸

地境界の形態の章に於て面狀境界、障壁境界、線狀自然境界線狀人爲境界と分類されてゐるが、その各の發生した歴史的要素に關する解説はあまり重要視されてゐない傾である。

かうしたことは單にこの章のみではない。予は著者のごとき有爲の學者の手によつて、從來の形式論から離脱し、個々の國家の内面的觀察から出發した新たな政治地理書の生れんことを希望し、敢てこの努力に充ちた推獎すべき好著を讀者に紹介する(F)

○經濟地理學原論

富田芳郎著 古今書院發行 定價

三圓五十錢。

本書は著者が今日まで東北大學に居られた時の研究のユツピー、奈良高等女子師範までの講習會等で原稿にされた經濟地理學に關するものを纏めて菊版四百五十頁の本に編されたものである。生産編、加工編、交易編、經濟と文化の四編からなり各編に二章乃至五章の區分がある。土壤、動植物、地形、氣候、工業各論、交易、交通機關、國際交易及その交易路、各大陸の交通、經濟文化の發達階程文化型と文化區といつた各論がその重要な論究問題である、いづれにしても地球上の百般の經濟現象を僅かにこの四百頁の一冊に纏められたのであるから各編語つて詳ならず、云はんと欲して云はざる所があるのも致方ないことである。蓋し經濟地理學の今日までの多くの要領を集成したといふ意味で「原論」といふ名がつけられたのである。著者もそれを認めて先學の殘された業績

の落穂拾ひだと謙遜してゐられる。予は著者がかうした資料から新に經濟地理學の原論といふものを構造されることを祈つて止まないものである。(藤田)

○大アマゾンヤ

野田良治著 萬里閣發行 四六版四四

七頁 序文六頁 圖版二三 定價二圓六十錢

著者はブラジル在勤大使館一等書記官にて日本一のブラジル通で先程御前講演の榮をになへられし人。本書は近時注目の的となつた廣大にして未開しかも當めるアマゾンヤの調査三十年の結果の精細を極めた紹介であつて先づ概念を與へ次に地勢を説き、進んで歴史、住民、氣候、動物、植物、地質等餘す處なく特に有用植物には多くの頁を費してゐる。ブラジルでは州は自治権あり國土廣大で地理に變化あり、アマゾン州は從來知られたるサンパウロ州の如きと大に事情異なるあり、人口問題に解決を與ふる何物かはアマゾンにありと言ふべし。我國に於いてアマゾンに關し眞に理解しなる人少きは遺憾なり、地學に志す人は本書の如きを讀まずしてブラジルを語るべからず移民問題を論ずべからずである。(JM)

○サモア(Samoa) ショートルマン(Erich Schumann)著

四六倍判 三二頁 寫眞一三九葉 一九二七年

See-Verlag Konstanz

美麗な多くの寫眞を主とする地誌が最近續々刊行され、先に Hühmann のインドにて貴重な寫眞を享み得た我等は今

又サモアを手にすることが出来た。サモアに就ては此の地方の研究者 A. Kramer 教授のサモア島なる卓越した著述があるが、何分豊大に過ぎる憾があつた。爰に著者自身の觀察に成れる生々した著作を得たことは我々の大きな喜である。

本書先づ地理的位置に筆を起して、火山作用にて成れる諸島嶼の自然状態を概説し其の沿革、住民に就いて略述してある而して聚落は主に海岸に在つて、數箇の小舎より成る小村から違つた區に分たれる程大きなものもあるが、民家は棕櫚やマンゴリーの樹影、甘蔗やバナ、に取圍まれて、綺麗な芝生や砂利の上に在る。甞に村居に於てのみならず、美しく清潔な民家の佇ひも見事に環境に適應して、熱帯景觀と驚くべき程一致してゐる様子が十數葉の寫眞と共に説かれてゐる。興味深き村落生活の様相等も窺はれ、本稿中此の章は最も面白く讀んだ。次に衣食及び労働を見て更に興味ある制度慣習より、彼等の有つ藝術やお伽噺を述べてゐる。最後に白人との混血を見て歐羅巴人との交渉、特に交易行政の中心 *カウチ* の町に就て述べ、白人の主要な事業を述べて、尊敬すべき傳統を有つ土人はサモアに於ける文化事業に興味なく、栽培事業には支那苦力の契約労働者や、ピスマーク群島のマレー人を使用してゐる。戦後甚だしく貿易交通量の減退したのは獨逸が如何にサモア島に熱心であつたかを示すもので、戦後英ニユーツીランドに委任されたが、獨逸が國際聯盟に加入後、委任を新たに分たれることを提議されたに對し、將來を祝福し

て我が田に水を引かんとしてゐる。

地圖の無いのが遺憾だけれども、適切なる一三九葉の大きい寫眞は僅々三二頁の本文と相俟つて南洋の樂園サモアの地理を簡明に叙述してゐる。嚴冬の候圖帖を繙くのみにも火鉢を抱くことを忘れしめるであらう。丸善が五圓で取次いでくれる。(村松)

○山男

創刊號 關西大學山岳部發行 一圓二〇錢

如何にも朴訥ではあるが然し我々地學を愛好する者にも限りない親しみを以て聞ゆる山男なる題名を附して、今回關西大學山岳部の機關雜誌が生れ出た。執筆者は勿論學内の部員であるが、中には教授助教授の顔も混つてゐる。夏期休暇の南洋旅行や山岳踏破の記事を始め主に紀行文であるのも雜誌の性質上已むを得ない。然し中には山と人生と題して山が精神上に齎らす影響を考察したり、南アルプスの氣候や、平和な山村の生活に就いての叙述もある。が主觀的な經驗の記述である。目次を拾へば、山への思慕、南國の旅、十勝より大雪山嶽へ、山岳觀、白山、森林と溪谷、山と人生、大塚行、中國橫斷記、雲仙臺から霧島まで、ハイ松愛護の提唱、俳句に表れた山の姿、南アルプスの氣候に就いて、寒村等で、卷頭に部員の撮影にかゝる夏の新高山、英瑛岳、白雲のコマグサの美麗な寫眞と、日本主要山岳表、學園を繞る山々の二圖を収めてゐる。菊判一五四頁、表紙の題字は仁保學長の筆に成る。何分未だ部の資金も無いことであり、急いで出した創

刊號であるから内容體裁に於て整つてゐぬ疑はがあるが、一本を贈られたから爰に紹介すると共に、衷心より其の創生を祝福し、健全な成長を希つて止まぬ。(村松)

雜報

○朝鮮咸鏡南道赴戰水電事業

北朝鮮の南部に西南—東北に向ふ、山脈は其の斷層崖を南に向け城川江南大川等は南に流れ、長津江、其支流の赴戰江等は、高原の中を深谷を描いて北流する。此の地形を利用して、近時水力發電所が計畫されて居るのは興味ある問題である。

赴戰江は赴戰嶺附近の白巖山より發し二千米内外の高原地帯を北に緩流し申江里で長津江に合し鴨綠江本流に注ぐのである。此の赴戰江の水路を堰塞し其の面積(流域面積)五一、五方里といふ一大湖水を作り幾條かのトンネルを以つて赴戰嶺の斷層崖を南に貫流し、その崖を利用して城川江に流下せしめ大なる落差を得んとするものである。

此の大工事は朝鮮水電株式會社の經營にして、總工費四千五百萬圓、其の電力十八萬キロワットを得、其の電力は主に咸興附近にある朝鮮窒素肥料會社に供給するといふ事である其の肥料は硫酸アンモニヤ其他の窒素肥料の製造をなす由で其の電力は、肥料會社に供給して尙餘裕があるといふ事だから咸鏡平野は工業地帯になり東朝鮮の産業革命を來すであらう。

因に朝鮮にはかかる地形を利用した發電所は已に他に於て經

營せられ金剛山の西方北漢口の水を堰止めて北方南大川流域に落しそこに發電所を設けたものあり又全北東南部の臺地を流るる瞻津江上流の水を西北の方黃海斜面に落すもの等がある。(吉田)

○清津無線電信局開局

東朝鮮沿海の交通上其他に、附近に無電局設備の必要があり遂に昭和三年度に入り豫算を計上し遂に清津府内天馬山の山腹に(海面上百八十八尺)建設せられ今年八月十六日より通信事務を執つてゐる。

内容を書くと無電敷地七千七百八十二坪、局舎は木造平屋建二棟、送信機力及方式は二キロワット真空管式送信機一機空中線鐵塔及空中線竝地氣は高さ四十五米、三十六米の自立式鐵塔各一基、受信設備は再生檢波低周波二段增幅真空管式受信機一臺を設け清津郵便局との間には、複線式音響機、單信電信回線及直通電話線各一回線を設備してゐる。

近時東朝鮮沿岸の發達急速にして、沿岸漁業を始め農林産物の物資盛に内地に向けられ内地との往來繁々咸鏡線の完全に貫通するあり、東西朝鮮の握手愈々密接の度を加へ特に對滿的往來盛ならんとし東朝鮮沿岸の發達日に隆盛の度を加へつつある時本無電局の開設は誠に慶ぶべきことである。(吉田)

○比律賓英領北ボルネオ境界條約

比律賓及英領北ボルネオ間の最後の境界は去る十一月七日華府に於て交渉を終了した新境界條約はタートル(Turtle)及マンゲシー(Mangsee)群島中の小島嶼を確定的に處理するのであつた。